

=====

【先端技術事業化メールマガジン 第 67 号 2006/5/10】

～Emerging Technology Business～

日経 BP 社 産学連携事務局

先端技術事業化サイト <http://innovation.nikkeibp.co.jp/etb/>

日経 BP 技術賞 <http://innovation.nikkeibp.co.jp/nbpta/index.html>

◎「お気に入り」への登録をお願いします。

—お知らせ—

■■■■□□■■■■□■■■■□ バイオフィナンスギルド第 5 期受講生募集中！！
■■□□■■□□□□■■□□□ 最新のバイオテクノロジーと投資のための評価を学ぶ
■■■■□■■■■□■■□■■■ 主催：Biotechnology Japan/バイオフィロンティア
■■□□■■□□□□■■□□■ パートナーズ 詳しくは↓↓↓
■■■■□□■■□□□■■■■■ <http://biotech.nikkeibp.co.jp/AD/BFG5.pdf>

=====

◆知財ビジネスの現場から 第 5 回「米国人は日本人が怖い?!」◆

=====

今回はカナダのトロントで、この原稿を書いています。国際商標協会（INTA）の年次総会に参加しているからです。全世界から 7000～8000 人の知財専門の弁護士や弁理士が集う最大規模の国際会議です。

参加者は、日頃、レターのやり取りをしているものの、めったに顔を合わすことのない海外の取引先担当者と会うことを楽しみにしています。また、新規顧客の開拓のために、積極的に声をかけてくる弁護士も多いのです。弁護士や弁理士も、サービス業ですから、当然、営業活動が必要となります。

特に今回、私が勤務する特許事務所が初めてパーティを開催するので、半年も前から準備を進めてきました。「Sake Tasting」と「Sushi」と「Kimono Girls」が“売り”です。日本酒や焼酎を何種類も取り寄せ、トロントで一番の寿司職人を呼び、そして着物を着たトロント在住のアジア系モデルが花を添えます。世界の知財関係者に事務所をアピールし、人的なネットワーク構築のキッカケを作ることが目的です。

企業や大学、特許事務所、いずれにとっても特許や商標のビジネスを考えた場合に、当然、その舞台は日本だけに留まりません。どのような海外ネットワークを持っているかが重要となります。しかし、海外の企業や事務所と新しいコネクションを作るの

は、そう簡単ではありません。私は2005年に、「今度、米国へ行くので、会ってもらえないか」と、“試し”に米国企業数百社にレターを送りましたが、返事をくれたのが5社、実際に会ってくれたのは、たった1社だけでした。

そのことを知り合いの米国人弁護士に話した時、彼は「米国人にとって、見知らぬアジアの人間は、とつても怖いからだ」と、打ち明けてくれました。紹介なしに、「会ってほしい」というレターをもらっても、毎日、郵便受けに溢れるダイレクトメールと同様、警戒心が働いて「そのままゴミ箱行きだ」といいます。日本では“飛び込み営業”という言葉がありますが、多民族国家の米国では、「飛び込もう」としても、その扉は相当かたく、跳ね返されてしまいます。

私も以前、6年ほど米国に居住していたので、「米国は日本以上にコネ社会だなあー」と感じるがよくありました。米国で就職活動をした時も、“何らかのコネ”がないと返事もくれません。

逆に“友達の友達からの紹介”といった、ほんの小さな繋がりでもあれば、いとも簡単に会ってくれることがありました。要するに、米国人と知り合いになりたければ、レターの書き出しが、「誰々さんの紹介で、私はあなたに手紙を書いています」となるように、小さなコネを探すのが秘訣となります。

一般の米国人にとっては、日本人も、中国人も、フィリピン人も、ベトナム人も皆一緒です。区別できません。韓国人が経営する「ジャパニーズ・レストラン」に行くと、お寿司と一緒にタイのトムヤムクン・スープが出され、食後に中国のフォーチュン・クッキー（中に“おみくじ”が入っているクッキー）をもらえます。不法滞在のアジア人も多いので、“エイジアン”が“エイリアン”に見えることもあるのでしょう。そんな環境では、“よそ者”に対して、まずは心にシャッターを下ろし、身構えるのも無理はありません。

米国人とビジネスの付き合いを始めるには、最初に彼らの警戒心を取り除く、ちょっとした工夫をすることが重要だと感じています。その後は、しっかり仕事をして、個人的に信頼してもらえるように努めます。個人主義が支配し、人材の流動が激しい米国では、会社や事務所ではなく、信頼できる「個人」と仕事をする傾向が強いと思います。

今後とも、私は知財のビジネスで、日本と米国の“架け橋”になれるよう、ネットワークを広げていきたいと思っています。

志賀国際特許事務所

弁理士/ニューヨーク州弁護士

【TOP STORIES】

◆最新の先端技術事業化サイトのオリジナル記事から、
続きは <http://innovation.nikkeibp.co.jp/etb/> をご覧ください

■九州工業大学、先導的推進プロジェクトの研究活動をシンポジウムで紹介

九州工業大学は、2006年4月27日に、第2回「東京シンポジウム 世界を先導する知的
クラスターの創成」を開催、同大学が先導的に推進するプロジェクトの研究活動を紹
介した。同シンポジウムでは、東北大学大学院工学研究科の江刺正喜教授の「LSIの
高付加価値化と応用に役立つMEMS (Micro Electro Mechanical Systems)」と題し
た基調講演に続いて、九工大の8教授・助教授の研究内容や起業しているベンチャー・
技術に関して講演した。

(2006/05/10)

■【Venture Now】ユビグラフ、ユビキタス環境構築ソフト「cogma」で事業化

名古屋大学発 ITベンチャーのユビグラフ（名古屋市、安藤真介社長）は、「いつでも、
どこでも、誰でもつながる」という“ユビキタス”情報環境を構築するソフトウェア
や関連機器の開発および製品化を進めている。同社は、名大大学院工学研究科の河川
信夫助教授が開発したユビキタス基盤ミドルウェア「cogma」を技術シーズに、その
製品化を目指して、2004年3月に設立された。

(2006/05/10)

●メールマガジンの登録内容の変更や配信停止は

<http://passport.nikkeibp.co.jp/bizmail/sentan/index.html> をご参照下さい。

なお、変更等の際には、登録時にご指定いただいたユーザーIDとパスワードが必要で
す。ユーザーIDとパスワードが分からない場合は、

https://passport.nikkeibp.co.jp/bizpwd/search_pass/index.html でお調べ下さい。

◆弊社からのお知らせを不定期に配信することがありますので、予めご了承下さい。
また、弊社の都合により配信を休止することがあります。

◆配信されたメールを、第三者に転送したり、Web サイトへアップするなどメールの再配信はお断りします。著作権は、日経 BP 社、またその情報提供者に帰属するため、掲載記事を許可なく転載することを禁じます。

◆広告掲載をご希望の方は sentanad@nikkeibp.co.jp へお問い合わせください。

Copyright (c) 2006 Nikkei Business Publications, Inc.

All rights reserved.

先端技術事業化メールマガジンの次回発行は、2006 年 5 月 17 日号です。